

教職センターだより

2024年5月17日 第1号
相模女子大学教職センター発行

「あこがれ」を形にする教職センター

教職センター長 池田 仁人



ある生命保険会社の発表によると、今の小学生女子が就きたい職業の第1位は「パティシエ」だそうです。以下、「会社員」、「美容師」、「イラストレーター・漫画家」と続きますが、保育士や教員はというと、「保育士・幼稚園の先生」が第6位、「教員」は第10位とのこと。ちなみに、同じ会社の20年前の調査では、「保育士・幼稚園の先生」が第2位、「学校の先生」は4位でした。こうしたデータを改めて見ると、残念ながら「先生」になりたい子どもたちが減ってきていると感じます。

なぜ、これらの職業を希望する子どもが減ってきてしまったのでしょうか。その要因はいくつか考えられますが、以前はなかった職業が現れたり、子どもたちの興味関心が多様化したりしていることなどが挙げられます。なるほど、身近で華やかな表現系の仕事やIT関連の仕事には憧れやすいでしょう。

しかし、小学校の先生や保育士なども、今もなお子どもたちにとって身近で「あこがれ」の存在であるはずですし、現役の先生方も子どもたちに豊かな学びと生活を提供してくださっています。以前はその姿が子どもたちのなりたい職業にも反映していたのでしょうか。

残念ですが、最近では「教師は大変だ」「学校はブラック」といった表現をよく耳にします。日常は多忙で残業も多く、待遇も良くなく、理不尽なことに巻き込まれることもある、といったものです。教員・保育者が不祥事で報道されることも多く、全体的にイメージはあまり良くないのかもしれない。反対に、教育・保育の良さについて語られる機会は少ないように思います。

そうした雰囲気は子どもたちにも伝わってしまうでしょうし、「先生は大変そうだな」というように見えてしまうことは十分に考えられます。どんな仕事も大変なことはありますが、教育・保育は「あこがれ」よりも心配が上回っているのかもしれない。

しかし、教育や保育の仕事は、子どもの成長を一番近いところで見ることができる、素晴らしい職業です。それも自らの支援や援助があって子どもが様々なことを乗り越えていけば、喜びややりがいも感じるすることができます。

子どもたちと同じように、高校生や大学生でも教育・保育の道に進もうという人が減ってきています。だからこそ、教職センターにおいても、先生方や先輩方から学生さんたちや受験生の皆さんに教職・保育の素晴らしさを伝え、「あこがれ」の心に火を付けていかなければならないと考えます。

今春、これまでで最大の卒業生が「あこがれ」を現実に変え、教壇に立つことができました。その学びを支えてきたセンターのスタッフは様々な形で教育・保育の世界に関わってきていますが、その経験を活かし、なお一層、教育・保育の良さを伝え、実践力と使命感にあふれる人材を育成していきたいと思っております。これからも学園の先生方、関係学科の先生方の温かいご支援、ご協力を賜りますよう、お願い致します。

(参考資料：2024年3月26日：第一生命保険株式会社「第35回「大人になったらなりたいもの」調査結果